

65 東海テレビ 東海テレビ放送開局65周年記念

グラン・ドリーム・バレエ・フェス 2023

出演者募集

ゲスト(順不同) 上野 水香(東京バレエ団 ゲスト・プリンシパル) 倉永 美沙(サンフランシスコ・バレエ団 プリンシパル)
近藤 亜香(オーストラリア・バレエ団 プリンシパル) 中村 祥子(K-BALLET COMPANY 名誉プリンシパル)
青木 崇(大阪バレエカンパニー) 厚地 康雄(元バーミンガム・ロイヤル・バレエ団 プリンシパル)
今井 大輔(法村友井バレエ団)

振付(順不同) 梶田 真嗣 徳山 博士 松岡 璃映・市橋 万樹

公演概要 ※詳しくは下記のコードを読み取ってマネージメント・プロのHPをご確認ください

日時/2023年10月8日(日) 16:00開演予定	チケット/S席 10,000円 A席 8,000円
10月9日(月・祝) 14:00開演予定	B席 6,000円 C席 4,000円
会場/愛知県芸術劇場 大ホール	主催/東海テレビ放送



重病入院中もダメ出し 「演劇活動は生きる源」 名古屋女性演劇賞 受賞した川村ミチル

「演劇活動は私の生きる源。作品化したいプランが幾つもあるんです」と意気込むのは、第3回名古屋女性演劇賞を受賞した川村ミチルだ。父親の転勤で出生地の京都から名古屋へ。劇団うりんこでキャリアを重ね、2001年には劇団そののめを設立し、12年間で70作ほどの作品を上演。この1月に脚本、演出した愛知県芸術文化協会の30周年記念公演



受賞を喜ぶ川村ミチル

「雨あがりの宴」が受賞の決め手になった。授賞式で川村は「人に恵まれ、助けられてきた結果です。きょう着けてきたネックレスは3年前に亡くなった衣装スタッフからプレゼントされたもの。今日初めて使いました。感謝の思いでいっぱいです」。川村は昨年8月、くも膜下出血で入院。死亡率30%とされる恐ろしい病だが、9月に退院。心配された後遺症もなく、「雨あがりの宴」の稽古に復帰した。「入院中も稽古の動画を送ってもらい、電話でダメ出しをしました。医師も呆れていました」と笑い飛ばす。4歳児と3歳児の母でもあるが「四六時中芝居のことを考えています。おかげで子供たちの自立心が育ちました」とも。自宅のある守山区にアトリエ「チル・ハウス」を建設。川村の演劇人生は、これからが本番だ。(聞き手/上野茂)

名古屋女性演劇賞 名古屋演劇家育成塾(佐々木利子実行委員長)の第36回コンサートが3月11日、千種文化小劇場で行われた。今回最高点の鈴木このか(ピアノ)が昨年9月の第35回の最高点、清水香織(声



武本京子トリオ

ピアノの武本京子がNHK交響楽団のヴァイオリン・豊嶋泰嗣、チェロ・藤森一と組んだピアノトリオ

武本京子、5月21日緑文化でトリオコンサート

ピアノの武本京子がNHK交響楽団のヴァイオリン・豊嶋泰嗣、チェロ・藤森一と組んだピアノトリオ

ピアニスト鈴木このかに市長賞

名古屋演劇家育成塾

名古屋演劇家育成塾(佐々木利子実行委員長)の第36回コンサートが3月11日、千種文化小劇場で行われた。今回最高点の鈴木このか(ピアノ)が昨年9月の第35回の最高点、清水香織(声



鈴木このか

「小柄」武器に羽ばたくアリアナ

舞台批評

「パジャマゲーム」

劇団四季の中心俳優として数々の作品に出演してきた、小柄で魅力的な女優がいた。青山弥生である。彼女のことを思い出したのは、名古屋文化振興事業団の企画公演「パジャマゲーム」(演出・中原和樹)で、青山と同じく小柄で魅力的な出演者がいたからだ。主演のベイブを演じたパリオス・アリアナは写真真中央である。名古屋を拠点に活動するフリーのミュージカル女優(女優)として、事業団公演には初出演と



歌よし芝居よし、何より小柄であることが優れている。歌よし芝居よし、何より小柄であることが優れている。歌よし芝居よし、何より小柄であることが優れている。

寺山への敬愛とアイデアが結実

「青森県のせむし男」

エス・エー企画が、寺山修司の「青森県のせむし男」を新演出で再演した(2月23〜26日・G/PIT)。演出の鹿目由紀をはじめ、小熊ヒデジ、松井真人、平手さやか、久川徳



エス・エー企画「青森県のせむし男」のリスベクトと真摯な解釈で、異形の世界と強烈な情念を現在に再現することに見事に成功していた。その体験を経たからか、新再演では俳優陣から再び演じられる寺山作品

への愛があふれ、役柄への自信がみなぎっていた。グロテスクな物語なのに、舞台からは張りつめた濃密な空気よりもエネルギーが感じられ、観劇の楽しさを味わうことができたのは驚き。演出や美術も物語を今の観客に面白く見せるためのアイデアを詰め込んだ。照明の明滅による人の入れ替わり、反物が飛び交い作られては消える鮮やかで細い花道、印象的な影絵や人形など、チャレンジの面白さは前回以上。ラストの客席の人形を使った観客へのアプローチも怖さごと共に、いたずら心が感じられた。寺山作品に挑み続けてきたエス・エー企画だからこそできた野心作。(竹本)

舞台にあふれる出演者の歌う喜び

「森は生きている」

名古屋二期会・芸創オペラ「森は生きている」写真真中央が上演された(3月4日、5日・芸創センター)。演出は右来左住。筆者が見た回は、主人公の娘



演出の右来が、マツユキ草を探す健気な娘が森の精たちに助けられる古典中の古典の童話を選んだ理由は、作者のマルシャークがロシア出身だから。傲慢な権力者が無

謀な行いを改め、誰もが幸せに生きる権利を持つというテーマを、シンパルな物語で訴えるべく演出に臨んだ。しかし、出演者たちの生き生きと歌う姿に重い使命感は吹き飛んだとのこと。完成した舞台はオペラの魅力を真すすぐに表現。中でも優しい四月の精が娘のために春の草花を芽吹かせるシーンは、歌手たちの歌う喜びと相まって印象的。権力者たちもコミカルで愛らしい表現で、観客を楽しませた。喜怒哀楽が豊かな天野の女王と鳴海の博士のやり取りは笑いを誘った。音楽は、小島岳志の指揮で、ピアニストの山本敦子が孤軍奮闘。心地よい演奏で見事に物語に寄り添った。(竹本)

舞台批評

愛知室内オーケストラ (ACO) の「アメリカン・プログラム」(3月7日・しらかわホール)で、打楽器をフィーチャーした楽しい曲を聴いた。ウォーカーの「アップフロント協奏曲」と、ドアティの「フランシスコ」

打楽器演奏の楽しさ躍動感を満喫



「アップフロント協奏曲」

ヴァンケルマンの演奏にうっとり



4人の共演で「夕べの歌」

愛知室内オーケストラ

(日本初演)。指揮は米岡で活躍中の原田慶太様が務めた。「アップフロント」は、通常オーケの最も後ろに位置する打楽器を、よく見えるように最前列に置いたのが曲名の由来と

か。ソリストはN響首席ティンパニ奏者の植松透。幾種もの打楽器の中で特に目を引いたのが3メートルもあるレインステック(竹の筒)。

名作ワルツに広がる空想と情景

クラリネット奏者つつみあつきが第95回コンサート「ウィーンの春」

(2月23日・愛知県芸術劇場中ホール)のメンパーは堤久美子(クラリネット)。

療法、教育コースの卒論発表も

名古屋音楽大学が、興味深い試み。第44回卒業論文発表がホール

の「ピアノ四重奏曲第2番」。



の思い出話が興味深く、名作ワルツを聴きながら様々な空想を馳せながらこれにダンサーが加わっていったら、気分は「ニュー・イヤール」だった。

最後は「白馬亭」もつつみの解説でイメージが広がり、ドラマの背景となった美しいウォルフガング湖が見えるようだった。全曲を通して、稲神の堅実なピアノがアンサンブルを支えた。実に気分の良いコンサートだった。

室内楽集団レーベインムジック(主宰・桑野郁子)が、ドイツのピアニスト、モーリッツ・ヴァンケルマンを迎え、シューマン室内楽全曲演奏会「デュッセルドルフ1805」(2月25日・電気文化会館)を開いた。

ヴァンケルマンは身長190センチ級の巨漢だが、音色は温かく穏やか。音に詩情があり、音数が少ないほど、それが顕著になる。プラームスのソナタは出色で、まるで小説を読み解くような趣があった。

電燈などの小道具、せりなどの舞台機構も存分に使い、ヒエラルキーの発生やコミュニケーションの疎外といった現象を、ダンスで雄弁に伝えている。対照的なダンスで今を表現する見事な企画。

さて、ステージで演奏を披露したのはオーディションで選出された18人(ピアノ6、声楽4、管4、絃1、打2、電オル1)だが、私が見たのは前半の9人のみ。最も印象に残ったのは電オル(エレクトーン)で自作曲「Mortal Coil」を演奏した岡島夕奈だ。

第33回全国バレエコンクール in Nagoya. 日程: 2023年8月17日・18日・19日・20日. 会場: 名古屋市芸術創造センター. 出場者募集! 応募締切 6月27日(火). 応募開始は 4月18日(火)からとなります.

独自のなコンテ、傑出した演出力. ダンス・セレクション. 愛知県芸術劇場プロデュースの「ダンス・セレクション」は、初登場の2組が独創的なコンテンポラリー・ダンスを上演した(2月11日).

間奏曲. 演奏家の育成プロジェクト「スタークラシック・アカデミア」で、NHK交響楽団の特別コンサートマスター・篠崎史紀(愛称マロさん)の話聞いた.

クラシックは「再生」と「伝承」. とを、ブレることなく、他人に流されず、やり続けることが大切だ.

私たちは「ナゴヤ劇場ジャーナル」を応援します. 会員募集. 「ナゴヤ劇場ジャーナル」では発行をご支援いただけるサポート会員を募集しています.

